

# 会 議 報 告 書

|       |  |
|-------|--|
| 主催者名  | 匹見総合支所住民福祉課  |
| 会 議 名 | 平成 28 年度 第 4 回 匹見地域協議会   |
| 開催日時  | 平成 29 年 2 月 6 日 (月) 13 時 30 分～16 時 35 分  |
| 開催場所  | 益田市匹見タウンホール 集会ホール  |
| 出席者   | ・ 匹見地域協議会委員 (7 名)<br>・ 匹見総合支所：山口支所長<br>住民福祉課：藤井課長、桐木補佐、小田<br>地域づくり推進課：靱田課長<br>建設課：露口課長 |

## 【会長あいさつ】

地域の疲弊が進んでいる。約 1 2 0 0 人くらいの人口の中で何とか地域を守っているといた状況である。本日の議題、慎重に審議いただくようお願いします。

## 【市長あいさつ】

昨日益田匹見会に約 8 0 名の方が参加され、盛大に開催された。その会に参加し、楽しませていただいた。本日の地域協議会で、色々、忌憚のないご意見をいただきたい。

## 【意見交換】

### (1) 市長との意見交換

- 美濃地屋敷の屋根について茅葺屋根が傷んでいるの葺き替えも考えなくてはいけない。その茅の保管場所として旧元組小学校の体育館があるが、美濃地屋敷と道川で集めた民具が収納されている。また旧道川診療所にも美濃地屋敷の物がある。良いものがあるのなら、飾って欲しい。
  - ▷ 美濃地屋敷の屋根については、傷みが激しい部分については、ストック分を使用し、本年度修繕をしたところである。今後維持をどうしていくかという検討を支所で進めている。茅の確保が近年難しいが、今後自治組織等を通じて確保するといった可能性も検討していきたい。

旧元組小学校、旧道川診療所に保管している美濃地の物品や民具については、文化財課を通じて検討しているところである。道川小学校の統合に向けた動きが進んでいる中で、古い施設についてどう活かすか総合的に調整していきたい。
- 道の駅構想について石見神楽が観光資源としての資質が十分あると言われているので、つながりのあるものにしていただきたい。
  - ▷ 整備検討委員会で詳細について検討をしていただいている。候補地とどういう風な道の駅にしているか深く検討するため来年度の前半くらいを目途に基本構想をまとめるスケジュールを進めている。食の発信拠点、人々の集いの場、民間の活動の発信拠点等色々な機能を付け加えていこうと聞いている。神楽のことについても親和会をはじめ、民間団体の方と連携しながら取組を進めていきたい。
- 道の駅を産直のような施設にということだが、地域全体の産直市として生きていくような施設にして

ほしい。また、集荷の方法も検討してほしい。

▷ 今回作る道の駅は益田市内の中心部となるが、匹見や美都地区の農産物も使っていききたい。なるべく地元の農産物が売れることも大切であるが、幅広く集客することが大切であるので、どういう範囲の産品を集めるかゆくゆく検討したい。

●非常に財政が厳しい中、市長の考え方、職員が何とかしようという企画立案が大切。市長の気概を伺わせてほしい。

▷ 既存の事業で止められるもの、縮小できるものはないか、担当課では中々削減しにくい、大きな判断でやっていかないといけないというところである。情報収集のため積極的に出かけ、顔や名前を売って色々な手がかりをつかむよう努力している。

●匹見峡温泉の薪ボイラーについてその後どうなったか。

▷ 現在も運用が止まったままとなっている。木材の集荷は十分あるが、乾燥が追い付かない現状である。ボイラーに適した薪の含水率は40%であるが、一番乾燥したものが50%で燃料としては不適當という状況である。

●自伐型林業について、地域おこし協力隊が期間を終えた後、山で仕事をするには機械やトラック等の準備が必要である。高額負担となるが補助等の考えがあるか。

▷ 具体的にどのようなものが必要となるか把握できていない。厳しい財政状況であるが、制度設計という意味でしっかりと検討していきたい。

●益田市も財政が困難で色々なアイデアを出さなければいけないが、地域自治組織等で考えたアイデアと行政のアイデアのすり合わせができる機会があればいいのではないと思う。

▷ 行政と企業が連携して同じ目的で物事を進めていこうという気運を高めているつもりで、民間の皆さんと行政職員が話し合う機会を積極的に作っていきたいと思っている。

●市が考えていることに対して意見をいうのが地域協議会の役割であるが、そうっていないようだが。

▷ 今年度の大きな課題は、空港の東京便の2便化の維持継続だと考えている。また、市が進めようとしている施策を民間企業と連携して進めていくことと考えている。

●平成29年度予算は、9%カットということだが、今後どれくらいまで続くか。

▷ 地方交付税の減額は平成31年度まで続くことになっている。国の予算を頻拍させている社会保障費、補助金のカット等で財政の見通しは非常に厳しいと言わざるを得ない。

●財政難というイメージを定着させると希望が無い中で若者は地元に残らないと思う。地元の若い人達が地域に残って根付いて生活できる環境を作るかということが、町が残っていく最大の要因だと思う。

▷ 9%のカット以上に影響を受けるところもあり、色々な方面にご迷惑をおかけした。

益田にいる人づくりに加え、意見交換等の場を設け益田は人が育つ町だということをお伝えし、人を引き寄せるような仕掛けをしたいと思っている。

●合併してから益田の中心地に人が集まり、周辺部がさびれていく。どうしたら匹见到活力がわくか考えていかないといけない。どうしたらいいのか住民と話をしないと衰退の一途をたどることになる。

▷ 地元にも地域のこれからを考えていただかないといけないし、行政の考えも示し、すり合わせをしていかなければいけないと思っている。

●今いる者で、本当に真剣に行政と民間で一緒になってこの地域をどうするのか考えていかないと大変なことになる。私たちもその気でこの問題に向っていききたいと思っているのでよろしくお願いします。

## 【報告事項】

(1) 学校給食の受配体制の見直しについて <資料 1>

○高津学校給食センターは昨年4月に新しい給食センターを建設し、供用開始した。また、美都の給食センターも1月に改修工事が終わり給食の提供を再開しているが、その中で、様々な課題解消のため、受配校の見直しを考えている。

益田市の大きな特徴として、小規模の学校が多いということがある。小人数の学校、学級が多く食缶の数が非常に多く作業効率が悪いという現状がある。色々な方向で分析したが、道川小学校の再編を踏まえ、4月から匹見小、中学校の給食を美都学校給食共同調理場で作ることにしたい。配送時間が短縮でき、配送の車両にも余裕ができるということで、4月からこの方向に進めたく、規則改正等の準備をしている。

#### 《質疑・意見》

●高津学校給食センターと美都学校給食共同調理場では献立が違うのか。

▷ 現在は、殆ど一緒であるが、最終的には美都の地域性を活かした献立を取り入れていきたいと考えている。

●以前、美都は地元の食材を使用し、地元商店から購入していたが今はどうか。

▷ 地産地消ということを積極的に行っており、美都産のものについては美都の商店から購入している。

●美都の調理場の年間経費はどれくらいか。

▷ 平成29年度の数字は把握していないが、美都が単独で運営していた時は約2,200万円であった。

●児童数が減少し、財政難の中でもあるので、高津学校給食センターのみで賄えるのではないか。

▷ 調理場の役割として学校給食だけでいいのかという考え方もある。美都では多目的に高齢者施策や、保育所を含めた学校給食等にも活用できないか、違う面に活用できるかどうかとということを含め検討していく。この2つの施設を有効に使用方法を見出していかななくてはならないと考えている。

●調理場が変わることで、不公平感があってはいけない。差が無いようにお願いしたい。

●匹見の子供にしてみれば、時間通りにきちんと運んでいただければ問題はない。政治的決断、市長の判断があってやっとここまで来たが、両方の施設を有効に利用して運営していく方法を考えていっていただきたい。

#### 【協議事項】

##### (1) 匹見地域活性化基金について <資料 2>

○平成29年度当初予算で取り崩しを見込んだ額を差し引くと、平成29年度末の残高が1,372万円となる見込みである。平成30年度以降計画どおり取り崩すと平成32年度末には0円となる見込みであったが、これまでの取り崩しが予定額より少なかったため、418万2千円残ることになる。今後これをどのように活用するか委員さんのご意見を参考にし、有効活用したい。

#### 《質疑・意見》

●匹見の核となっている温泉の運営に取り入れる検討したらどうか。

●現在、基金を使っている事業についてこれが無くなった時どうするか？

▷ 田舎体験事業の基金充当は終了することになっている。事業自体をどうするかを含めてこれからの検討事項となる。他の財源があるか、一般財源で対応するかは今後検討することとなる。

●見通しとしては、計画どおりの執行となるか。

- ▷ わさび生産事業費については、事業を実施した段階で計画した金額より余る可能性があるが、事業の中で、新たな展開も考えられる。しかし、基金の活用を増やすことはないと思われる。
- 温泉に多額の基金を注んでいるのだから、温泉のピーアールをもっとしないといけないと思う。わさび生産振興事業についても、これまで多額の基金を使っているのであるから、基金事業効果がどれくらいあったか報告してもらいたい。
- ▷ 地域づくりコーディネーターの報告に合わせ年度末に報告する。

## 【その他】

- Iターン者との交流会を開催してコミュニケーションをとりながら定住に結び付けようという取り組みをしようという話があったが、その後どうなったか。
  - ▷ Iターンの交流会は、本庁で計画されている。匹見からも何人か出席されている。支所が音頭をとって開催はしていないが、Iターン者のグループで毎月集まっておられる方もおられる。
- 本庁と支所の連携はどうなっているか。
  - ▷ 国からの施策等はまず本庁に情報提供がある。その後、支所に情報提供がなされていく。その情報が密にやり取りされているがということについては色々課題があるかと思う。匹見は匹見として考えることは考え、それをきちんと本庁に伝え施策の中に落としていく姿勢が必要だと思う。
- 匹見総合支所、総合といっても支所から企画立案がされていないのではないか。全職員が地域のことについて企画立案し、提言するようなことをしていかないと、ここがどんどん衰退していく。
  - ▷ 農業関係については、本庁、各支所の担当がそれぞれ参加した中で県の説明等を聞き一緒に事業を実施している。